公　　示

2026 年 11 月

2026 年度細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）認定について

公益社団法人日本臨床細胞学会　理事長　森井英一
細胞診専門医委員会　委員長　松浦祐介
細胞検査士委員会　委員長　三上芳喜

細胞診は、がん検診および精密検査において極めて重要な手法であり、技術の進展と共にその精度管理も高度なものが求められています。日本臨床細胞学会は、がん検診の質を確保・向上させるため、専門知識と経験を有する医師および細胞検査士を対象に「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）」の認定制度を 2024 年より開始いたしました。この認定は、子宮頸がん検診において指導的な立場を担い、国民の健康維持に貢献することを目的としています。

認定要件：本制度は、次の 3 つの主要分野に関する A・B・C の講習を各 1 単位以上受講し、合計 5 単位の取得が必要です。

A. 子宮頸がん検診の精度管理
B. 子宮頸部細胞診と分子生物学的マーカー
C. その他（公的検診と職域検診の管理、啓発活動など）

講習は 2022 年から既に始まっております。

2026 年度の認定スケジュールは、以下のとおりです。

2026 年 12 月 1 日～31 日	申請
2027 年 1 月中	予備審査
2027 年 2 月 6 日	細胞検査士資格更新審査会にて細胞検査士申請分を審査
2027 年 2 月 27 日	細胞診専門医資格更新審査会にて細胞診専門医申請分を審査
2027 年 3 月～4 月	認定結果通知、認定証送付

申請は WEB 申請となる予定です。

資格審査認定料として、6,600 円が必要となります。

リンク：細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定施行細則

（参考）

細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）

細胞診は各種がん検診の手法として、あるいは精密検査で用いられるなど、その貢献度は広く認識されています。各種がん検診手法についてはエビデンスに基づくガイドラインの更新とともに変化していくことが考えられます。このようながん検診を取り巻く環境の中で、臨床医・細胞診専門医・細胞検査士は検診のスタイルを理解し、その変化に柔軟な対応を行っていく必要があります。

子宮頸がん検診に関する検体採取やその取扱い、がん検診の精度管理について、更には細胞診やそれに関わる分子生物学的な手法を用いたがん検診業務に精通した臓器別エキスパートを日本臨床細胞学会として教育・養成します。ここでいう精度管理とは細胞診断の精度およびがん検診を事業としてとらえ、その質を徹底的に管理して高い水準を保つことを意味します。

子宮頸がん検診においては従来の細胞診に加えて HPV 単独検診が導入されました。本認定制度は今後、臨床の現場を中心に子宮頸がん検診において指導的立場に立ち国民の健康維持に寄与することを目的とします。

子宮頸部の細胞診検体の顕微鏡検査は、十分な経験を有する医師及び臨床検査技師が所属する専門的検査機関において行われます。この場合、医師及び臨床検査技師は、それぞれ日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医及び細胞検査士であることが望まれます。本制度は「細胞診専門医」および「細胞検査士」を対象に精度管理や分子生物学に対する教育を行い認定するものです。「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）」は子宮頸がん検診の各過程を正しく理解し、検体採取や臨床的マネジメントにおいては指導的立場にあり、病理細胞検査室においては臨床医と病理医・細胞検査士とが連携し、正確な診断に協力していきます。

日本臨床細胞学会春期大会・秋期大会ごとに開催される「精度管理アドバイザー講習会」において下記のA・B・Cに関する講演を各１コマ（１コマ１単位）行います（一度の学術講演会で単位取得ができる複数の講演がある場合があります）。A・B・C をすべて含む５単位取得（５回の受講）後に申請資格が得られます。

A　子宮頸がん検診の精度管理

１　子宮頸部細胞診における検体採取部位・採取法（採取器具）とその取扱いについて理解している。

２　細胞診の標本作成法について理解している（直接塗抹法・液状処理法)。

３　細胞診の判定・報告様式（ベセスダシステム）について理解している。

４　子宮頸がん検診プログラムの精度管理について理解している。

５　子宮頸がん検診のアルゴリズムを理解している。

６　コルポスコピー・子宮頸部生検による精密検査を理解している。

７　それぞれの手法による子宮頸がん検診の利益・不利益について理解している。

８　組織診結果による子宮頸部病変の取扱いを理解している。

B　子宮頸部細胞診と分子生物学的マーカー

１　女性生殖器について理解している。

２　子宮頸がんの自然史・疫学について理解している。

３　扁平上皮系病変と腺系病変について理解している。

４　子宮頸がん検診の歴史について理解している。

５　HPV 単独ないし併用検診について理解している。

６　各種 HPV 検査法について理解している。

７　子宮頸がんと分子生物学的マーカー（p16、 Ki-67 など）について理解している。

C　その他（公的検診と職域検診の管理、啓発活動など）

１　我が国の子宮頸がん検診の施行形態とそれぞれの課題について理解している。

２　がん検診に関する国内外のエビデンスを理解している。

３　がん検診の対象者と受診者への説明内容について理解している。

４　がん検診の啓発活動について理解している。

以上のA・B・Cの各項目のすべての講習会を受講し、５単位取得後に申請を行い、審査を経て、「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん)」と認定されます。